

京都医労連は下記の声明を發表しました。

2022年3月10日

## ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、即時完全撤退を求める

本日は、医療・介護労働者の賃金・労働条件の改善にむけて、全国や京都の仲間と一緒に立ち上がる「3・10日本医労連産別統一行動日」です。

この統一行動にあたって、「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」と決意した労働者として、以下の内容でロシアに対して抗議を行います。

2月24日、ロシアがウクライナ侵攻し、2週間が経過しました。マスコミを通じて、民間人の犠牲者が日に日に増えていると報道されています。ロシアによる侵略行為は、ウクライナの主権を犯し、国連憲章や国際法に反する犯罪行為そのものです。

3月4日にウクライナ南部のサポロジエ原発関連施設に砲撃を行い、一部破壊されたとも報道がされています。福島原発やチェルノブイリ原発の重大事故に匹敵、もしくはそれ以上の大惨事につながる危険があります。

ウクライナ侵攻に先立ってプーチン大統領は、「ロシアが世界最大の核保有国」と強調し、核兵器による威嚇を行っています。2021年1月核兵器禁止条約を発効させ、世界の人々が願う「核兵器廃絶の道」に背く行為・発言です。

このような時にこともあろうか、安倍元首相や維新の会など、民放のテレビ番組で、米軍の核兵器を配備し、日米が共同で管理・運用する「核共有」について、「議論をタブー視してはならない」と表明しました。世界で唯一の被爆国の政治家としての許せない発言です。

こうした中で、日本国内を含む世界各国で無数のデモやスタンディング宣伝が行われ、「NOWAR（戦争反対）」の声がSNSなども含め、あふれています。私たち医療・介護労働者は、これらの行動に呼応し、無差別に人のいのちを奪う戦争行為に強く抗議し、即時完全撤退を求めます。あわせて、日本政府には憲法9条を活かした対話と協力の外交努力を求めます。

京都医療労働組合連合会  
執行委員長 勝野 由起恵